

- Leeper, J. R., 1976. A review of the Hawaiian Coccinellidae. *Proceedings of the Hawaiian Entomological Society*, 22: 279–306.
- 丸山宗利・大野 豪, 2011. 沖縄県におけるカタボシテントウ *Coelophora inaequalis* (Fabricius, 1775) の記録. 昆虫 (ニューシリーズ), 14: 112–115.
- Sasaji, H., 1982. A revision of the Formosan Coccinellidae (III) subfamily Coccinellinae (Coleoptera). The memoirs of the Faculty of Education, Fukui University, Series II (Natural Science), (31): 1–49.
- 佐々治寛之, 1985. テントウムシ科. 黒澤良彦・久松定成・佐々治寛之 (編著), 原色日本甲虫図鑑 (III). pp. 244–270. 保育社・大阪.

(小浜継雄 901–2216 宜野湾市佐真下 28)

### 【短報】伊豆諸島三宅島からのタテスジヒメジンガサハムシの記録

タテスジヒメジンガサハムシ *Cassida circumdata* Herbst, 1799 は、日本および中国、東南アジア、南アジア、ハワイ、パラオ、ミクロネシアなどに広く分布している (Borowiec, 1999; Gressitt, 1955; Samuelson *et al.*, 1999; Takizawa & Kusigemati, 1996). これまで、日本国内では硫黄島および中硫黄島、種子島、屋久島、宝島、奄美大島、喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島、沖縄島、浜比嘉島、敷地島、津堅島、伊平屋島、瀬長島、渡名喜島、久米島、南大東島、宮古島、石垣島、波照間島、西表島、与那国島、魚釣島などの小笠原諸島や南西諸島以南の島々から記録されていた (Azuma & Kimoto, 1981; 今坂・祝, 2007; Kimoto, 1966, 1980; 木村, 2011; 小濱, 2010; 楠井, 2017; 楠井・宮城, 2017; 長嶺, 2007; 永田, 1993; Nakane & Kimoto, 1961a, b; 重藤, 2019a, b; 高橋, 2012; Takizawa, 1982; 滝沢, 2014). しかし、近年、分布を北へ広げており、伊豆諸島八丈島や大阪府、奈良県、岡山県、宮崎県において発生が確認されている (藤江, 2017; 川畑, 2010; 中武, 2009; 奈良県, 2020; 大阪府, 2012; 東京都, 2004; 末長, 2016).



図1. 三宅島産タテスジヒメジンガサハムシ.

なお、末長 (2016) によると、岡山県の記録は室内に置いてある飾り花の下に落ちていたものであり、偶産である可能性があるとされている。また、Chûjô (1934) において素木得一博士が “Kagoshima”

で採集された標本を基に “Japan proper (Kyûhû)” から記録されており、Chûjô (1935, 1957) や Chûjô & Kimoto (1961) においても本種の分布にそれぞれ “Kyushu” および “Kagoshima in Kyushu”, “Kagoshima” が含まれている。しかし、Chûjô (1961) では、本種の分布から九州が除かれており、Kimoto (1966) における本種の分布では “Japan (?Kyushu)” とされ、その後の文献からは本種の分布から九州が除外されている。本種の正確な分布や九州への侵入時期の把握のため、過去の標本を調査する必要がある。

本種はハマヒルガオ *Calystegia soldanella* やヨウサイ *Ipomoea aquatica*, サツマイモ *I. batatas*, モミジバヒルガオ *I. cairica*, コダチアサガオ *I. fistulosa*, ヤツデアサガオ *I. digitata*, ノアサガオ *I. indica*, アサガオ *I. nil*, ゲンバイヒルガオ *I. pescaprae* などのヒルガオ科 Convolvulaceae の植物を寄主植物とし (Chûjô & Kimoto, 1961; 重藤・吉武, 2020; 滝沢, 2014; 東京都, 2004), 幼虫・成虫共に葉を食害する。特に、サツマイモの害虫として知られており (日本応用動物昆虫学会, 2006; 小濱, 2010; 高良・東, 1970), 発生が確認された都府県では病害虫発生予察特殊報を出すなどして注意喚起を行っている (奈良県, 2020; 大阪府, 2012; 東京都, 2004).

今回、筆者の一人である瑤寺が、2018年5月に伊豆諸島三宅島において昆虫相の調査を行った際に、本種を採集しているので、同島初記録としてここに報告する。本報告は伊豆諸島からの2島目の産地となる。

3 exs., 東京都三宅村坪田長太郎池付近, 12. V. 2018, 瑤寺採集, 重藤保管. (図1)

ノアサガオのスウィーピングで得られた。採集地 (図2) では同時にヨツモンカメノコハムシ *Laccoptera nepalensis* Boheman, 1855 も複数得られている。本種はタテスジヒメジンガサハムシと同様に

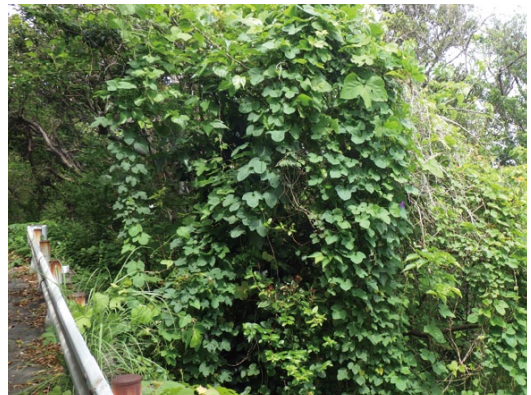


図2. 三宅島におけるタテスジヒメジンガサハムシの生息環境.

南方系の国内移入種であり、その採集データは重藤ほか(2020)で記録済みである。

これまでの三宅島における昆虫相調査ではタテスジヒメジンガサハムシは記録されておらず(大野, 1968; 大野ほか, 1967; 渡辺・相馬, 1972), 三宅島には比較的最近侵入したものと思われる。近年, 本種と同様にヨツモンカメノコハムシの日本本土部や伊豆諸島への侵入・定着が多く確認されており(大原・山田, 2020; 重藤ほか, 2020), 三宅島においても2012年にはすでに確認されている(竹内ほか, 2012; 東京都, 2012)。両種ともに, サツマイモを寄主植物としており, サツマイモ苗の移動に伴って分布を拡大している可能性が高い。また, 三宅島は観光地として人の往来が激しく, 人や荷物に付着して侵入した可能性もある。今後, これらの種のさらなる分布拡大を予防するために苗を移動させる際には, 苗を洗浄することや服や荷物に付着していないかを確認するなど, 細心の注意を払う必要がある。

末筆ながら, 原稿を校閲し, 有益なご助言を下された東京都の南雅之氏および文献を恵与下さった岡山県の末長晴輝氏に厚くお礼申しあげる。

## 引用文献

- Azuma, S. & S. Kimoto, 1981. A list of the Chrysomelidae (Coleoptera) from the detached islands in Okinawa. Science Bulletin of the Faculty of Agriculture, University of the Ryukyus, (28) : 49–55.
- Borowiec, L., 1999. A world catalogue of the Cassidinae (Coleoptera, Chrysomelidae). 476 pp. Biologica Silesiae, Wrocław.
- Chûjô, M., 1934. Studies on the Chrysomelidae in the Japanese Empire (V). Sylvia, 5 (8) : 145–182.
- Chûjô, M., 1935. Chrysomelidae of Loo-choo Archipelago (I). Transactions of the Natural History Society of Formosa, 25: 136–139.
- Chûjô, M., 1957. Chrysomelid-beetles of Loo-choo Archipelago (IV). Memoirs of the Faculty of Liberal Arts & Education, Kagawa University, 2 (52) : 1–8.
- Chûjô, M., 1961. Chrysomelid-beetles of Loo-choo Archipelago (VI). Entomological Laboratory College of Agriculture, University of Osaka Prefecture Publication, 6: 83–91.
- Chûjô, M. & S. Kimoto, 1961. Systematic catalog of Japanese Chrysomelidae (Coleoptera). Pacific Insects, 3: 117–202.
- 藤江隼平, 2017. 大阪府におけるタテスジヒメジンガサハムシの記録. Nature Study, 63 (11) : 7.
- Gressitt, J. L., 1955. Coleoptera, Chrysomelidae. Insects of Micronesia, 17: 1–60.
- 今坂正一・祝 輝男, 2007. 喜界島で2007年に採集した甲虫. Satsuma, (137) : 119–129.
- 川畑喜照, 2010. 伊豆諸島八丈島の甲虫 VII. 神奈川虫報, (172) : 29–39.
- Kimoto, S., 1966. The Chrysomelidae of Japan and the Ryukyu Islands, XI (Subfamily Hispinae and Cassidinae, Bibliography). Journal of the Faculty of Agriculture, Kyushu University, 13: 635–671.
- Kimoto, S., 1980. Catalogs of the Chrysomelidae of Tokara Is., Kikaigashima and Okinoerabujima in the Ryukyu Archipelago. Kurume University Journal, 29: 153–159.
- 木村正明, 2011. 尖閣諸島の昆虫. 昆虫と自然, 46 (8) : 18–22.
- 小濱継雄, 2010. 沖縄県におけるサツマイモの食葉性害虫. 沖縄県農業研究センター研究報告, (4) : 27–31.
- 楠井善久, 2017. 瀬長島(沖縄県豊見城市)の甲虫目録(1987年から2007年まで). 琉球の昆虫, (41) : 25–32.
- 楠井善久・宮城秋乃, 2017. 浜比嘉島(うるま市)の甲虫目録. 琉球の昆虫, (41) : 39–49.
- 長嶺邦雄, 2007. 南大東島の昆虫. 琉球の昆虫, (31) : 65–66.
- 永田武志, 1993. 1992年梅雨時の与論島の甲虫. Leben, (23) : 45–47.
- Nakane, T. & S. Kimoto, 1961a. Entomological results from the scientific survey of the Tokara Islands, Coleoptera, Chrysomelidae. Bulletin of the Osaka Museum of Natural History, 13: 72–79.
- Nakane, T. & S. Kimoto, 1961b. A list of chrysomelid-beetles collected by Dr. T. Shiraki from the Loo-choo islands, with descriptions of new species II. Kontyû, 29: 106–110.
- 中武文広, 2009. タテスジヒメジンガサハムシが宮崎県に分布. タテハモドキ, (45) : 12.
- 奈良県, 2020. 令和2年度病害虫発生予察特殊報第1号. 2 pp. 奈良県.
- 日本応用動物昆虫学会(編), 2006. 農林有害動物・昆虫名鑑増補改訂版. 387 pp. 東京.
- 大原賢二・山田量崇, 2020. 徳島県で確認されたヨツモンカメノコハムシ. 徳島県立博物館研究報告, (30) : 101–103.
- 大野正男, 1968. 三宅島のハムシ相(第二報). 昆虫学評論, 21 (1) : 33–38.
- 大野正男・小宮義璋・鈴木邦雄, 1967. 三宅島のハムシ相(第一報). 昆虫学評論, 19 (2) : 74–79.
- 大阪府, 2012. 平成24年度病害虫発生予察特殊報第1号. URL: <http://www.jpnp.ne.jp/osaka/H24nd/tokushu/no1.html> (2020年7月1日アクセス)
- Samuelson, G. A., B. Kumashiro, & D. W. Jamieson, 1999. *Cassida circumdata* Herbst established in the Hawaiian Islands (Coleoptera: Chrysomelidae). Occasional Papers of the Bernice P. Bishop Museum, (59) : 29–31.
- 重藤裕彬, 2019a. 沖縄諸島渡名喜島未記録のハムシ類. さやばねニューシリーズ, (33) : 20–24.
- 重藤裕彬, 2019b. 敷地島(沖縄諸島)未記録のハムシ類. 月刊むし, (583) : 41–45.
- 重藤裕彬・末長晴輝・南 雅之・渡部晃平, 2020. ヨツモンカメノコハムシの分布記録および日本国内, 特に琉球列島における分布の現状. ホシザキグリーン財団研究報告, (23) : 227–243.
- 重藤裕彬・吉武 啓, 2020. 大東諸島南大東島で採集されたハムシ類. さやばねニューシリーズ, (38) : 43–49.
- 末長晴輝, 2016. 岡山県におけるハムシ類の分布記録(3). すずむし, (151) : 13–14.
- 高橋 徹, 2012. ハムシ科(マメゾウムシ亜科・ネケイハムシ亜科を除く). Pp. 239–372. 初宿成彦(編). 大阪自然史博物館所蔵甲虫類目録(2). 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録第44集, 372 pp. 大阪.
- 高良鉄夫・東 清二, 1970. 西表島の農作物害虫相について. 沖縄農業, 9 (1) : 19–30.
- 竹内浩二・嶋田竜太郎・沼田洋子・沼沢健一・嶋田 綾, 2012. ヨツモンカメノコハムシの発生と被害状況および防除対策. 東京都農林総合研究センター平成24年度成果情報. pp. 113–114.
- Takizawa, H., 1982. Notes on Japanese Chrysomelidae (Coleoptera). Entomological Review of Japan, 37: 55–60.
- 滝沢春雄, 2014. 日本産ハムシ科生態覚書(8). 神奈川虫報, (182) : 37–46.
- Takizawa, H. & K. Kusigemati, 1996. Notes on Chrysomelidae of the Palau Islands (Insecta, Coleoptera). Occasional Papers, (30) : 23–25.
- 東京都, 2004. 平成16年度病害虫発生予察特殊報第1号. 3 pp. 東京.

東京都, 2012. 平成 24 年度病害虫発生予察特殊報第 1 号. 2 pp.  
東京.  
渡辺泰明・相馬州彦, 1972. 三宅島の昆虫相. 農学集報, 17 (1):  
1-58.

(重藤裕彬 900-0001 那覇市港町 2-11-1  
那覇植物防疫事務所)  
(瑤寺 裕 060-8589 札幌市北区北九条西 9 丁目  
北海道大学昆虫体形学教室)

### 【短報】群馬県と茨城県におけるリュウキュウダエンチビドロムシの記録

リュウキュウダエンチビドロムシ *Pelochares ryukyuensis* Satô, 1966 は, 伊藤・前原 (2017) により本州での分布が周知されて以降, 本州～九州の各地で記録されるようになった種である (中村, 2019; 橋爪, 2019). 関東地方においては, これまで千葉県 (君津市: 中村, 2019), 東京都 (港区: 野村ら, 2019; 稲城市: 伊藤・前原, 2017), 栃木県 (足利市: 大川, 2020a; 栃木市: 大川, 2020b) の 3 都県から知られている. 筆者らは, 群馬県および茨城県において, 両県から初記録となる本種を確認しているの  
で以下に記録する.

9 exs., 群馬県板倉町海老瀬 (渡良瀬遊水地), 16. VI. 2020, 小林栄一・小池正之の採集, ぐんま昆虫の森  
保管; 1 ex., 同所, 11. VII. 2020, 中村涼の採集, 保管;  
1 ex., 茨城県古河市立崎, 8. XII. 2019, 神澤由己の採集,  
保管.

群馬県の 2 例は, 渡良瀬遊水地での灯火採集で得られた. 6 月 16 日の灯火採集地点の付近には谷田川が流れており (図 1), 採集個体が遊水地内の湿地と川のどちらから飛来したかは不明である. 7 月 11 日の採集個体は, 採集地点の立地からして, 遊水地内



図 1. 6 月 16 日の灯火採集地点.

の湿地から飛来したと思われる. 茨城県では, 渡良瀬川河川敷において, 洪水時に堆積した枯れ草などを篩にかけることによって得られた. 種同定は伊藤・前原 (2017) に拠った. 大川 (2020a, b) の記録も含め, 上記の産地はいずれも渡良瀬川流域の近接した地点であり, 本種はこの地域に広く分布すると考えられる.

末筆ながら, 標本の採集・同定に協力いただいた小林栄一氏, 小池正之氏, ぐんま昆虫の森の金杉隆雄氏, 茨城県のチビドロムシ科の記録についてご教示いただいた大桃定洋氏に厚く感謝申しあげる.

### 引用文献

- 橋爪拓斗, 2019. 九州におけるリュウキュウダエンチビドロムシの記録. さやばねニューシリーズ, (35): 39.  
伊藤 淳・前原和雄, 2017. 本州のリュウキュウダエンチビドロムシとチビドロムシ. さやばねニューシリーズ, (28): 36-37.  
中村 涼, 2019. 千葉県のリュウキュウダエンチビドロムシとチビドロムシ. さやばねニューシリーズ, (35): 38-39.  
野村周平・松原 豊・山崎裕志・上田衛門・亀澤 洋, 2019. 国立科学博物館附属自然教育園 (東京都港区白金) 産甲虫類目録. 自然教育園報告, (51): 37-71.  
大川秀雄, 2020a. 足利市産昆虫類分布資料 (XI). インセクト, 71 (1): 7-12.  
大川秀雄, 2020b. 洪水により打ち上げられたゴミの中より得た渡良瀬遊水地の甲虫数種の記録. インセクト, 71 (1): 13-15.  
(中村 涼 286-0035 成田市囲護台 3-5-5)  
(茶珍 護 376-0132 桐生市新里町鶴ヶ谷 460-1  
群馬県立ぐんま昆虫の森)  
(神澤由己 189-0021 東村山市諏訪町 3-7-22)

### ◇学会の発行物・バックナンバーの販売委託先◇

昆虫文献 六本脚

〒 102-0075 東京都千代田区三番町 24-3

三番町 MY ビル 3 階

TEL: 03-6825-1164

FAX: 03-5213-1600

E-mail: roppon-ashi@kawamo.co.jp

URL: <http://kawamo.co.jp/roppon-ashi/>